

## 令和3（2021）年度 事業状況報告書

事業 ID : 2020567198

事業名 : 家庭養育推進自治体モデル事業（山梨県）における里親支援および地域の子育て家庭支援

団体名 : 社会福祉法人山梨立正光生園

### 《事業概要》

#### I 里親支援および地域の子育て家庭支援

- 1 里親包括支援事業（フォスタリング事業）
- 2 乳幼児短期緊急里親モデル事業
- 3 地域の子育て家庭支援事業
- 4 子ども家庭福祉ソーシャルワークのための人材育成

### 《事業実施状況》

#### I 里親支援および地域の子育て家庭支援

##### 1 里親包括支援事業（フォスタリング事業）

###### 【概況】

広報活動は県内事情により7月からの始動となったが、年度末までにはほぼ全市町村（24市町村／27市町村）において実施した。その結果、コロナ禍のため9月中旬からの開始を余儀なくされた里親相談会等（全20回）ではあったが、総参加者数は41組57名、電話による制度内容問い合わせが19件となった。

その後の家庭訪問等による選考を経て、登録研修に進んだ7組8名の里親希望者は全員、里親登録に至った。なお、現在4組8名が次年度登録に向けて準備中である。

市町村担当課への事業説明では里親制度に関する認知に関し、十分とはいえない状況もみられた。子育て短期支援事業における里親の活用について言及すると関心をひき、職員を対象とした説明会の実施や広報誌による啓発につながるケースもあった。

###### 【所感】

本事業のほとんどが当法人にとって初めての取り組みであった。当初特に、広報活動を含む里親リクルートの方法に不安を感じたが、地域に出て試行錯誤する中で、住民、関係諸機関、商業施設から協力と具体的なアドバイスを得ることができた。その背景には、当法人における80年余りの子ども家庭福祉実践への信頼があった。

里親相談会等への参加誘因となった主な媒体としては、スーパーマーケットや図書館に設置を依頼したチラシやポスターと自治体広報誌が、里親制度の啓発に関してはそれらに加えラジオ番組が挙げられる。また、これらの活動にあたっては里親登録希望者を探すということのみならず、地域で暮らす里親家族への理解と里親養育制度の広報協力の促進を目指した。

里親登録に向けたプロセスでは、制度の趣旨、それを担う専門職としての里親や対象となる子どもの状況・状態への理解といった観点から、選考、研修を実施した。その結果、本年度登録に向けては子どもの養育経験がある7組8名を選出し、その全員が登録に至った。今後は継続的に関係をもち、委託につなげてゆきたい。

###### 【実施状況】

###### 〔里親リクルート〕

###### \* 広報活動

- ・ 県内の市町村担当課への事業説明（24市町村／27市町村）
- ・ 甲府市伊勢地区民生委員・児童委員、同地区社会福祉協議会への事業説明
- ・ 甲府市各地区自治会回覧板による事業説明（伊勢地区 7/23、上石田地区 7/21、山城地区）

- ・ 市町村社会的養育担当職員向け制度説明会の実施（富士吉田市 10/5、山梨市 12/20）
- ・ 市広報誌による里親制度説明と里親相談会のお知らせ（富士吉田市 12・1月号連載）
- ・ 町広報誌による里親相談会のお知らせ（身延町 2月号掲載）
- ・ 県社協ボランティア・NPO ボードでの里親相談会のお知らせ
- ・ ラジオ番組出演による里親制度説明と里親相談会のお知らせ（FM 甲府 9/17）
- ・ ラジオ番組（イベント情報枠）による里親相談会のお知らせ（FM 八ヶ岳 随時、NHK 甲府 随時）
- ・ 新聞（イベント情報枠）による里親相談会のお知らせ：

山梨日日新聞：9/23, 10/28, 11/18, 12/9・15, 1/7,2/10, 3/29,4/14

韮崎ジャーナル：10/5、八ヶ岳ジャーナル：12/5

- ・ 図書館、公民館、商業施設等でのポスター・チラシ設置

＊ 里親相談会等の開催〔全 20 回、総参加人数 41 組 57 名〕

内訳 地域相談会〔12 回〕：甲府市（9/23・26, 10/2・9, 11/23, 1/9, 2/20, 3/21）、韮崎市（10/30）、  
北杜市（12/12）、富士吉田市（1/30）、身延町（2/13）

個別相談会〔6 回〕：当センター（5/8,9/11,10/4・13,11/13,12/5）

その他〔2 回〕：甲府駅北口フリーマーケット（11/21, 12/19）

※ 他に、電話による内容問い合わせが 19 件

＊ その他：

フォスタリング機関 HP 作成、チラシ作成（印刷のみ外注）・配布、のぼり旗・ロールアップバナー作成、ノベルティアイテム（ボールペン、絆創膏、メモ帳）の作成



△ 里親相談会告知用チラシ（例）

△ 事業内容広報エリア（24 市町村／27 市町村）

〔研修等〕

- ＊ 家庭訪問の実施〔計 12 回〕（5/13, 10/1・3・8・30, 11/12・13・14・19, 1/15・20, 2/27）
- ＊ 研修の実施
  - ・ 基礎研修： ① 6/4, 6/5, ② 11/5, 11/13, ③ 3/5, 3/12・19
  - ・ 登録前研修： ① 7/2・3, 7/19・23, ② 9/21・27, ③ 11/20・21, 11/28・12/4

〔登録〕

前期：2 組 3 名（内、1 組 1 名は、乳幼児短期緊急里親モデル事業実施に向けた登録）

後期：5 組 5 名

## 2 乳幼児短期緊急里親モデル事業

### 【概況】

当法人乳児院に勤務する非常勤職員（看護師）1名が里親登録し、任務についた。3/13(日)にはご自身にフォスタリング機関職員が同行し、自宅の近隣住民宅（6軒）に伺い、事業の趣旨を説明。理解と協力をお願いし、快諾をいただいた。その内の2軒から後日、里親養育にご自身も関心があり、登録に向けた説明が聞きたいとの話が里親にあった。

### 【所感】

受け入れに向けての準備に、里親とそのご家族とともに乳児院、フォスタリング機関職員が関与した。ご家族のご理解、ご協力に改めて感謝するとともに、子どものためにできることを共に探ってゆきたいと思う。

近隣家庭からの申し出にも心強く感じた。このような形での訪問が、里親登録への関心につながるとは思いますが、今後のリクルートのあり方に反映できればと考える。

### 【実施状況】

- \* 当法人 乳児院非常勤職員（看護師）1名が登録（前期）
- \* 3/14より当該里親は委託待機

## 3 地域の子育て家庭支援事業

〔令和3年度 相談実績〕

### ① 相談実人数

#### 相談種別実人数

養護		保健	障害	非行	育成				いじめ	DV	里親	その他	合計
	虐待（再）				性格行動	不登校	適性	しつけ					
46	28	31	16	2	18	27	5	0	2	1	1	3	180

#### 市町村別実人数

甲府	甲斐	南プス	山梨	笛吹	昭和	富士川	中央	斐崎	富士吉田	甲州	その他	県外	不明	合計
56	31	17	4	8	5	4	17	5	4	3	9	4	13	180

### ② 相談延べ件数

#### 月別相談延べ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話相談	39	40	35	60	62	64	93	83	43	45	57	38	659
来所相談	19	23	36	33	30	33	33	35	38	37	28	43	388
訪問相談	13	15	30	27	35	46	36	30	26	16	19	34	327
心理療法等	24	22	30	36	35	45	38	37	33	32	36	41	407
メール相談	1	0	5	1	5	4	4	0	2	3	1	0	26
その他	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6	0	8
合計	96	100	136	159	167	192	202	185	142	133	147	158	1815

#### 相談種別延べ件数

養護		保健	障害	非行	育成				いじめ	DV	里親	その他	合計
	虐待（再）				性格行動	不登校	適性	しつけ					
507	281	244	162	22	202	263	69	9	8	1	5	42	1815

#### 相談経路別受付延べ件数

児相	県・市町村	保育所	児童福祉施設	医療機関	学校等	家族親戚	知人	本人	里親子	不明	合計
63	189	18	6	32	42	870	5	556	7	27	1815

③ 夜間対応件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	4	3	2	2	4	5	3	2	3	2	7	37

④ 児童相談所からの受託

相談種別実人数

養 護		保 健	障 害	非 行	育 成				いじめ	その他	合計
	虐待(再)				性格行動	不登校	適性	しつけ			
12	9	0	0	1	0	0	0	0	0	13	

月別対応延件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14	13	12	13	16	23	28	17	11	19	23	13	202

⑤ 他機関との連携

事 業 名	実施回数
里親支援連絡会	12
要保護児童地域対策協議会	18
関係者会議	32
相談機関との連絡会	2
児童相談所・県子育て支援課連絡会	1
合計	65

在宅支援の内訳

相談支援実人数		180人	
相談支援延べ件数		1815件	
内訳	電話相談	659件	
	メール相談	26件	
	来所相談(心理療法等含む)	795件	
	訪問相談(その他8件含む)	335件	
訪問327件中、在宅支援件数		257件(58人)	
内訳	当法人からの退所児童支援件数	77件(13人)	
	地域の児童支援件数	180件(45人)	
内訳	養育支援	176件	
	家事支援	32件	
	自立支援	49件	
	自立支援 内訳	家計の経済支援、親の受診同行	13件
		児を社会資源等につなぐ支援	22件
		学習支援・進路相談・就労支援	14件

【相談件数について】

年々相談件数は増加していたが、昨今の比較では、R2年度相談延件数は980件、R3年度は1815件で、約1.85倍増加した。過去5年間でみると、虐待・養護の件数は約40～50%を占めており(内虐待は約15%)、R3年度も変わらない。障害については、R2年度が4%、R3年度は8%と増加しており、当法人の子どもの心のクリニックとの連

携による相乗効果と考えられる。不登校相談については、R2年度21%から14%に減少し、急増したR2年度がコロナ禍で小中学校の休校と関連していたと推察された。

#### 【訪問件数について】

過去5年間の訪問件数は約50~70件で、相談延件数の5~6%であったが、日本財団助成により相談員が増員されたR3年度は327件と大幅に増加し、相談延件数の約20%を占めることとなった。また、訪問している件数の約80%が在宅支援である。

#### 【関係機関との連携について】

R2年度は、児相や市町村等、行政との連携は相談延件数の約8%であったが、R3年度は児相52件、県・市町村166件で、行政との連携が全体の約13%と増加した。その他、医療機関や学校との連携も増加している。要対協、関係者会議等は、過去5年間で約30件であったが、R3年度は65件に増加した。

新しい取り組みとしては、甲府市障害者自立支援協議会児童部会への参画や、放課後デイサービスやフリースクール職員への技術支援、大学からの依頼で講師として出向もあった。また、市町村から子育て相談事業における心理士の派遣や要対協の代表者会議、実務者会議への参加の依頼も増加している。

#### 【指導委託について】

児童相談所から受託している指導委託の実人数は、毎年10人前後であるが、相談支援延件数はR2年度の127件から202件と増加した。

#### 【まとめと今後の課題】

子ども家庭の在宅支援は、時間とマンパワーが質的に重要である。特にハイリスク家庭においては、緊急の呼び出しなども多く、フットワークの軽さも求められる。また、家事支援については、家政的な支援の一方で、本来の目的は子どもを中心に、子どもが過ごす住環境という視点でサポートを通じて、親子と時間を共にしながら、家庭での養育実態を把握し、その手技、養育の意義や技術を伝える等、支援員のソーシャルスキルが問われる業務である。従って、今後ますます相談員・心理職等専門性の向上と共に人材の確保増員は必須となろう。

また、在宅支援を行う家庭は、特にその家庭に関わる関係機関が既に存在する場合も多く、関係機関との密な連携が必要、とりわけ市町村との協働が重要となると感じた。

最後に、当法人は、クリニックを併設していることから、小児・児童精神科医から専門的な知見と指導を受けながら、質の高い在宅支援が実践できているとあらためて確信できた。

## 4 子ども家庭福祉ソーシャルワークのための人材育成

### 【概況】

10月末より子ども家庭ソーシャルワーク専門職研修（全10回）をオンライン形式で実施した。対象者を広く子ども家庭福祉に従事されている方とし、県市町村の担当課、児童福祉施設、学校、医療機関等に、訪問とメール、郵便により案内状、チラシを配布した。参加総申込者数は447名で（1名の申込であっても背後に複数の視聴者がいるケースもある）、児童発達支援センターや放課後等デイサービス、保育所・幼稚園といった保育施設の職員の参加が多数を占めた。

研修後のアンケート調査によれば、研修に対する満足度、内容の理解度および業務への貢献度のいずれにおいても高評価であり、自由記述では総じて児童虐待対応への関心の強さが窺え、研修への参加により自らの職務のあり方を再確認したとのコメントも散見した。また、訪問先で出合った参加者からは、コロナ禍で多くの研修が中止になる中、オンラインでの実施やアーカイブ動画（期間限定）の配信は貴重であったというコメントや、内容面では、子どもの権利主体性と家庭養育原則を軸にした施策や児童虐待対応のあり方について、各領域の第一人者による講義に刺激を受けたという感想をいただき、アンケート調査結果を裏付けるものであった。

### 【所感】

県子ども福祉課をはじめとする関係諸機関の協力をいただき、短期間で多くの方に本研修を周知することができた。また、回が進むと、参加者による口コミが参加者数の増加につながった。

本研修を通して、参加者との間で子ども家庭福祉に関する共通認識が強化されたことに加え、一種の仲間意識が形成されたようにも感じている。在宅支援や里親養育の推進といった部分での具体的な話を、電話や面会等のやり取りにおいて以前よりもより円滑に行えるようになった。講義内容にもあったが、「顔の見える関係」の構築に、こういった研修が機能していることを意識しつつ、次年度のあり方を検討したい。

## 【実施状況】

### 〔子ども家庭ソーシャルワーク専門職研修（全10回）〕

＊ 目的

ソーシャルワークの文脈において子どもたちの抱える生活課題や発達の積み残しを明確化（アセスメント）し、支援・解決するための専門性を高め、児童虐待対応や養育の質の向上に資することを目的とする。

＊ 対象者

- ・ 区市町村の社会的養育関係担当職員
- ・ 児童福祉施設職員
- ・ その他子ども家庭福祉に従事されている方

＊ テーマ、講師、各回申込者数〔申込者数合計 477名〕

回	日程	テーマ	講師	申込者数
第1回	令和3年 10月27日(水)	新たな社会的養育システムの形成に向けて ～保護から養育へのパラダイムシフト～	加賀美尤祥（社会福祉法人 山梨立正光生園 理事長）	45名
第2回	令和3年 11月11日(木)	子どもは変わる・大人も変わる ～乳幼児虐待からの再生：愛着形成が再生の 鍵を握る～	内田伸子氏（お茶の水女子 大学名誉教授）	42名
第3回	令和3年 11月26日(金)	虐待を受けた子どもの理解と支援 ～虐待が子どもに及ぼす影響～	奥山眞紀子氏（子どもの心 のクリニック・テラ 院長, 元国立成育医療研究センター こころの診療部長）	57名
第4回	令和3年 12月3日(金)	虐待をする親の理解と支援 ～虐待傾向のある親・家族の心理社会的特徴 の理解と支援～	西澤哲氏（山梨県立大学 教授）	52名
第5回	令和3年 12月22日(水)	生活を視野に入れた統合的アプローチ ～心の癒しと成長を助けるために～	村瀬嘉代子氏（大正大学名 誉・客員教授）	67名
第6回	令和4年 1月8日(土)	社会的養育システムのなかの親子支援 ～生活障害に対する介入～	田中康雄氏（北海道大学名 誉教授）	51名
第7回	令和4年 1月27日(木)	トラウマ系発達障害と複雑性PTSDの親子併 行治療	杉山登志郎氏（福井大学 客員教授）	59名
第8回	令和4年 2月9日(水)	「市町村における社会的養育ネットワーク」 ～『新しい社会的養育ビジョン』を踏まえて ～	井上登生氏（井上小児科医 院 理事長, 日本子ども虐待 医学会 副理事）	40名
第9回	令和4年 2月28日(月)	市町村子ども家庭総合支援拠点と子育て世代 包括支援Cにおけるマネジメント	鈴木秀洋氏（日本大学准教 授）	34名
第10回	令和4年 3月10日(木)	「子どもの権利」 ～成年年齢引き下げを前に～	八巻佐知子氏（弁護士）	30名

子どもの福祉に関する専門性を高めるためのセミナーです。

Supported by THE NIPPON CHILD FOUNDATION

## ZOOMオンラインセミナー 参加無料

### 子ども家庭ソーシャルワーク専門職養成研修

全10回開催(10月～3月) ※ 一部の回だけの参加も可能です。

第1回 10月27日(水)13:30～15:00 … 参加申込締め切り 10月25日(月)  
『新たな社会的養育システムの形成に向けて  
～保護から養育へのパラダイムシフト～』講師:加賀美 尤祥 理事長

第2回以降の講師予定

- 奥山 眞紀子 先生 (小児精神科医/子どもの心のクリニック・テラ院長  
元 国立成育医療研究センター ところの診療部長)
- 内田 伸子 先生 (発達心理学/お茶の水女子大学名誉教授)
- 杉山 登志郎 先生 (精神科医/浜松医科大学児童青年期精神医学講座特任教授)
- 鈴木 秀洋 先生 (公法学[行政法・地方自治法]/日本大学危機管理学部准教授)
- 西澤 哲 先生 (子ども家庭福祉/ソーシャルワーク/山梨県立大学人間福祉学部教授)

詳しい日程については、決まり次第、当法人のホームページなどでお知らせいたします。  
社会福祉法人 山梨立正光生園のホームページ <http://y-risyou.ed.jp/>

**対象** 県内外の児童福祉施設の職員、県市町村の関係課職員、  
その他子ども家庭福祉に携わる仕事の方

**背景と目的**

平成29年に取り戻された「新しい社会的養育ビジョン」では「養育の質」の向上に向けた人材育成の重要性を記し、ソーシャルワークの文脈の中で子どもたちの抱える生活課題や発達の問題を明確化(アセスメント)し、解決するための専門性を高める研修の体系化を構築(す)ることを要請しています。  
そこで、県内外の児童福祉施設職員や、県内27市町村社会的養育関係職員等が、その専門性を高め、児童虐待対応や重症養育に資することを目的として、人材育成プログラムを構築し、提供します。

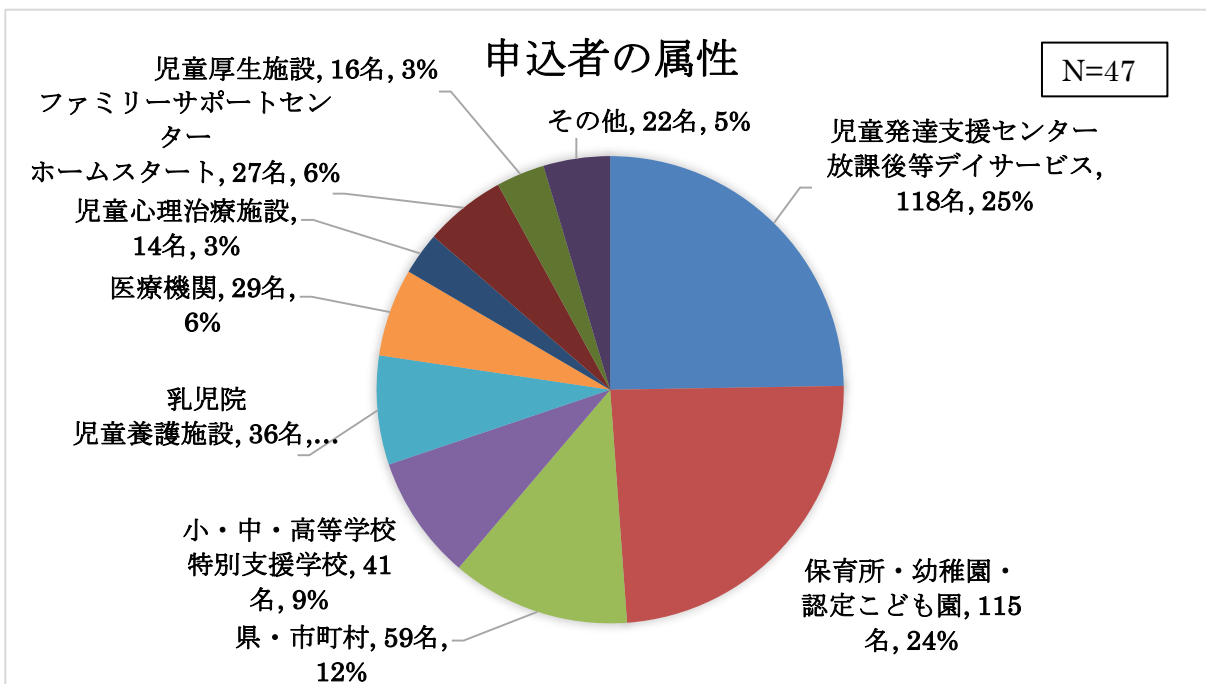
**皆さまのご参加をお待ちしております。**

**お申込み方法** 参加ご希望の方は、左記QRコードからお申し込みください。 **お申し込み用QRコード**

お問い合わせ先 社会福祉法人 山梨立正光生園 地域総合子ども家庭支援センター・テラ 子ども家庭ソーシャルワーク専門職養成研修-研究所  
055-222-8012

△ 研修告知用チラシ (例)

\* 申込者の属性 (合計値)



\* 参加者アンケート

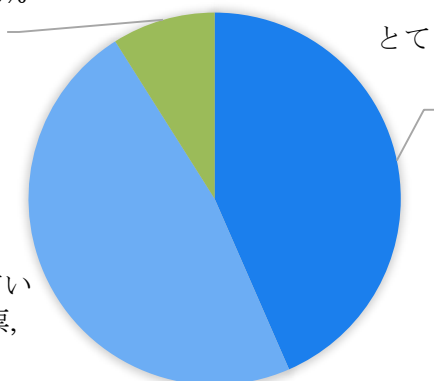
- ・ 目的：満足度、内容が業務へ反映できたかなど、参加者が感じたことを基に、本研修の成果を確認し、今後の研修内容やあり方について検討する。
- ・ 対象：本研修参加者
- ・ 方法：研修終了後、オンライン上のアンケート回答フォームを送付し、回答を依頼。
- ・ 質問項目：① 今回の研修の満足度を教えてください、② 研修内容は理解できましたか、③ 研修内容は、現在または今後の業務に役立ちそうですか、④ 今回の研修で学びたいと思っていたことは、どういったことでしたか、⑤ 今後計画される研修の中で、学びたい内容があれば教えてください、⑥ 研修への感想やご要望などを教えてください

① 今回の研修の満足度を教えてください n=145

普通, 13票, 9%

満足している, 69票, 48%

とても満足している, 63票, 43%

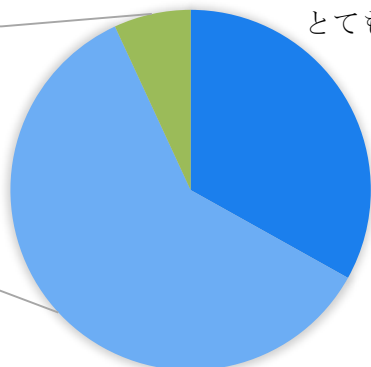


② 研修内容は理解できましたか n=145

普通, 10票, 7%

理解できた, 87票, 60%

とてもよく理解できた, 48票, 33%



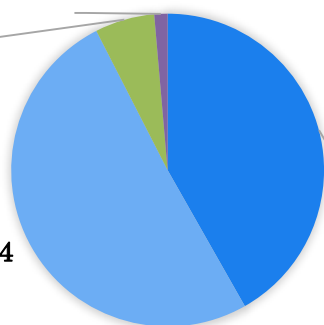
③ 研修内容は、現在または今後の業務に役立ちそうですか n=146

あまり役立たない, 2票, 1%

普通, 9票, 6%

役立つ, 74票, 51%

とても役立つ, 61票, 42%



※ 以降は④～⑥の自由記述における主な回答を記載

④ 今回の研修で学びたいと思っていたことは、どういったことでしたか

- ・ 子どもを取り巻く環境と、その影響。私たちは困難な環境に育つお子さんをどう理解し、関わってあげられるのかという事。
- ・ 支援者が理解している、得意な分野での‘ものさし’で判断することに陥りがちな視点を、どのように



打開していくか。親への関与にあたっての大事なことを学びたいと思いました。

⑤ 今後計画される研修の中で、学びたい内容があれば教えてください

- ・ 最近では、子どもの支援だけでは難しい（家庭に問題がある）ケースが多いです。困難なケースについて事例を出して頂きその支援方法について学びたいです。
- ・ 家庭、学校、関係機関との連携の難しさを思い知らされている所です。上手に連携がとれるようにするにはどうしたらよいか学びたいです

⑥ 研修への感想やご要望などを教えてください

- ・ 今日的な課題を取り上げた貴重な学びの場を無償で提供いただけるのありがたい。
- ・ 施設の職員を経験して現在町役場でSSWをしています。地域は施設以上に親と関わる機会やケース数が多く、役場の要対協担当者も学ぶべき内容だと感じました。現状、専門職の少ない地域では、困った親だ、育ちが悪いから仕方がない、という気持ちで関わっている職員が多くなります。今回の研修で、ではどうすることが効果的なのか、ということのを常に考えている人たちがいることを知ることができ、これからのモチベーションになりました。

### 《見えてきた課題》

本年度における各事業の実践を通し見えてきた課題は、次の通りである。

#### 〔里親包括支援事業（フォスタリング事業）〕

- ・ リクルート過程で出会った、里親登録に至らない方とのつながり方（社会資源化）の検討
- ・ ショートステイ里親制度の活用と運用に関する課題整理
- ・ プロの養育者としての里親養成（アタッチメント形成とチーム養育を主題としたもの）
- ・ 里親月間（10月）における取り組みの再検討

#### 〔乳幼児短期緊急里親モデル事業〕

- ・ 本事業を担える里親の選定  
→ 社会的責任、アセスメント力、フォスタリング機関との協働性

#### 〔地域の子育て家庭支援事業〕

- ・ 家事支援ができる関係性の構築（→ 生活の場に介入できる対人関係力の向上）  
（cf. 相談支援における関係性）
- ・ 施設措置から在宅措置の流れの中での法人体制づくりとそのための人材育成  
→ 児童虐待相談対応件数の推移から今後、要保護児童の増加が見込まれる  
→ 虐待問題、不登校の表出  
→ 在宅支援の役割の増大 → 体制づくり

#### 〔子ども家庭福祉ソーシャルワークのための人材育成〕

##### \* 子ども家庭ソーシャルワーク専門職研修

- ・ 受講スタイル、内容の検討（含. アフターコロナ）
- ・ 演習プログラムの導入

##### \* その他の研修

- ・ 里親養育支援に関する研修プログラムの実施  
→ フォスタリングチェンジ  
→ ポジティブ・ディシプリン（→ Save the Children（国際NGO）による養育者支援プログラム）

以上